

ツネログ #24

2026年8月号

皆さん、こんにちは。

1カ月以上に及んだFIFAワールドカップ2026の終幕に際し、ニュージャージーでの決勝戦を視察しました。3カ国共催で過去最大規模の大会となりましたが、こういった規模の大会を将来、日本に招致するにはサッカー界のみならず、政治、経済を含めて国のいろいろな能力が必要なことをあらためて強く感じた次第です。

SAMURAI BLUE(日本代表)の監督人事については、7月23日の第9回理事会を経て、AFCアジアカップ(2027年1月7日~2月5日)まで森保一監督が引き続き務め、同年3月から2030年のFIFAワールドカップまで現U-21日本代表の大岩剛監督が指揮を執ることを決定しました。

その過程について皆さんにお話をすると、選考について昨秋から技術委員長と議論を始め、森保監督の続投を含め国内外から候補をリストアップし、さまざまな可能性を考慮しました。監督人事は当然ながら複数の契約が絡んでおり、早めに動くことが肝要となると同時に、とてもセンシティブなものです。日本代表のこれまでの歩みを分析し、今年初めには次も日本人監督に託すことを総合的な観点から判断しました。日本サッカーがさらに成長していくためには「継承と進化」を大切にすべきだと考えたからです。

森保監督は就任当時50位台だったFIFAランキングを8年かけて17位まで引き上げてくれました(2026年7月20日時点)。その功績に対し最大限のリスペクトを持ってどのタイミングで伝えるべきなのかを考え抜いた結果、3月に話し合いの場を持ち、ワールドカップ後の契約満了に伴い退任いただく意向であることをお伝えしました。

その後、JFAの規定に則り、山本昌邦技術委員長兼ナショナルチームダイレクター、会長が指名する人物である西野朗さんと監督候補者の協議を進めていきましたが、その中で、重要なタイトルであるアジアカップをいかに勝ち取るかという議論になり、方針を修正することとしました。さらに言えば、ワールドカップのドローのポット分けや、キャンプ地の選定においてFIFAランキング上位国が優先されるなど、本大会で勝ち進むためには上位に入っておくことが重要となります。

以上より、アジアで圧倒的な強さを見せた森保監督にアジアカップ指揮を任せることがベストではないかとわれわれは結論づけ、5月に再度話し合いの場を持ち、森保監督に快諾いただきました。

次期監督を務める大岩監督は鹿島アントラーズの監督としてAFCアジアチャンピオンズリーグで優勝し、今年1月にはU-21日本代表の編成で臨んだAFC U23アジアカップで2連覇を果たしています。アジアでのトーナメントを勝ち上がることは簡単ではありません。若い選手を引き上げ、成長を促す力も含めてこれからの日本代表を託すにふさわしい監督です。まずは今秋、自国開催となるアジア競技大会に集中してもらいます。森保監督のアジアカップまでの続投も、大岩監督の就任のタイミングも4年後のワールドカップをさまざまな角度から見据えた上で最善な選択だと考えています。

ロサンゼルスオリンピック、次回ワールドカップに向けてJFAとしてもしっかりサポートしていきます。

最後になりますが、7月28日に令和8年熊本地震が発生し、甚大な被害に見舞われています。亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご家族の皆さまにお悔やみ申し上げます。そして被災された皆さまにお見舞いを申し上げます。JFAは熊本県サッカー協会と連携を図りつつ、被災地の皆さんとコミュニケーションを取りながら必要な行動を取っていく所存です。一日も早く日常を取り戻せるよう、心より願っています。



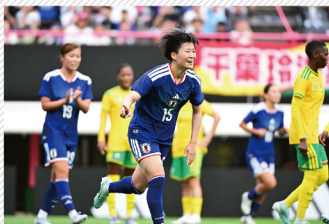
会長の活動報告

2026年6月5日～7月23日(抜粋版)

6/6(土)

国際親善試合 なでしこジャパン vs. 南アフリカ女子代表(ヤンマーハナサカスタジアム)

狩野倫久監督の就任後初めての試合で、選手一人ひとりが自分の持ち味を出そうとする姿勢が印象に残りました。新しいチームづくりは始まったばかり。一つひとつの経験を成長につなげ、世界一奪還を目指してチームを前へ進めています。



6/8(月)

SAMURAI BLUEベースキャンプ コミュニティデー オープントレーニング(アメリカ/ナッシュビル)

ナッシュビルでは本当に多くの皆さんに温かく迎えていただきました。在ナッシュビル日本国総領事館をはじめ、現地で力を貸してくださった皆さんに心から感謝しています。皆さんの応援とサポートが、チームの大きな後押しになりました。



6/14(日)、6/20(土)、6/25(木)、6/29(月)

FIFAワールドカップ2026

グループステージ第1戦 vs.オランダ代表(アメリカ/ダラス)

グループステージ第2戦 vs.チュニジア代表(メキシコ/モンテレイ)

グループステージ第3戦 vs.スウェーデン代表(アメリカ/ダラス)

ラウンド32 vs.ブラジル代表(アメリカ/ヒューストン)



選手たちは世界を相手に最後まで果敢に戦ってくれました。目標には届かなかったものの、今大会で見えた可能性と課題は、日本サッカーにとって大切な財産です。この悔しさを忘れず、次の成長への原動力に変えていきます。

6/15(月)

FIFA Executive Football Summits2026 (アメリカ/マイアミ)

各国・地域のサッカー協会の仲間と選手育成や子どもたちが安心してプレーできる環境づくりなどについて意見を交わしました。それぞれの課題や取り組みから多くの刺激を受け、日本サッカーの未来に向けて今進めるべきことを整理する貴重な時間になりました。



6/24(水)

WEリーグ理事会(オンライン)

7/2(木)

FIFAワールドカップ2026帰国会見(JFAハウス)

7/8(水)

文部科学省 表敬訪問(文部科学省)

森保一監督や選手たちと文部科学省を訪れ、松本洋平大臣にワールドカップでの戦いを報告しました。選手たちの姿が多くの方に勇気や元気を届けたと伺い、サッカーが持つ影響の大きさを感じました。



7/10(金)

Jヴィレッジ株主総会&取締役会(Jヴィレッジ)

7/17(金)

FIFA World Cup 2026 Final Reception (アメリカ/ニューヨーク)

7/19(日)

FIFAワールドカップ2026

決勝 スペイン代表 vs.アルゼンチン代表 視察
(アメリカ/ニューヨーク)



世界一を懸けた試合の緊張感やスタジアムの熱気に触れ、この舞台の大きさを実感しました。いつか日本がここで戦う姿を実現するために、世界との差を見つめ、必要な取り組みを一つずつ積み上げていきます。

7/22(水)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

7/23(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2026年度第8回理事会が7月23日(木)にJFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。



決議事項

FIFAワールドカップ2026

登録選手の出身チームへの育成還元金

FIFAワールドカップカタール2022の際と同様、FIFAワールドカップ2026に登録されたSAMURAI BLUEの選手26人が11歳から21歳までの期間(最長10年間)に所属していたチームに対し、育成還元金を支給することが決まりました。対象となるのは、選手が当該期間に1年以上在籍したJFA加盟団体登録チームで、営利法人、財団法人、社団法人、NPO法人、学校教育法第1条に定める学校およびこれに準ずる団体です。支払額は1チームあたり「30万円×当該選手在籍年数」で、総額7,095万円を見込んでいます。

SAMURAI BLUE監督を選任

2027年1月からサウジアラビアで開催されるAFCアジアカップまでは

森保一監督が引き続き指揮を執り、同年3月から2030年のFIFAワールドカップまでは、現在、U-21日本代表を率いる大岩剛監督がSAMURAI BLUEの監督を兼任することが決定しました。

報告事項

2025年度施設整備助成金および一括補助金(47FA/9地域FA)の最終交付額

2025年4月～26年3月の施設整備助成金は、5都道府県サッカー協会(FA)の各フットボール施設に対し、総額1億1202万2500円となりました。また、9地域FAへの一括補助金は、最終交付額が3億3877万7275円、47FAへの一括補助金は17億2009万8871円となりました。

Information

Jリーグと過去最大規模の共同プロモーションを実施 ～「街の誇りを、世界へ。」ワールドカップと2026/27シーズン 開幕に向けた共同施策を展開～

JFAとJリーグは、ワールドカップおよび2026/27シーズンのJリーグ開幕に向け、「街の誇りを、世界へ。」をコンセプトとした過去最大規模の共同プロモーションを実施します。これは、Jリーグで育った選手たちが日本代表として世界へ挑戦する姿を通じて、日本代表とJリーグのつながりや日本サッカーの魅力を発信する取り組みです。

第1弾として、代表選手や森保一監督を起用した交通広告やプロモーション動画を全国で展開。さらにSNSキャンペーンやコラボグッズの販売なども予定しており、ワールドカップへの関心をJリーグへの来場・視聴につなげながら日本サッカー全体の機運醸成を図ります。※6/10発表

リスペクト・フェアプレー強化月間 「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2026」を開催

JFAは9月をリスペクト・フェアプレー強化月間と位置づけ、9月1日から30日まで全国で「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2026」を開催します。期間中は、JリーグやWEリーグをはじめとする各種大会・イベントでリスペクト旗

の掲揚やキャプテンによる宣言を実施するほか、9月26日にはサッカー文化創造拠点「blue-ing!」とオンラインでリスペクトシンポジウムを開催します。あわせて、リスペクト・フェアプレーの実践を表彰する「リスペクトアウォーズ」や、子どもたち・ユース審判員の声を集めるパブリックコメントを募集。暴言や暴力、差別やハラスメントのない、健全で持続可能なサッカー環境づくりを目指します。※7/2発表

高円宮記念JFA夢フィールド × JAPAN BASE 日本ラグビーフットボール協会と拠点施設に関する相互連携協定 を締結

JFAは7月21日、日本ラグビーフットボール協会(JRFU)と「拠点施設に関する相互連携協定」を締結しました。期間は2028年3月31日までで、JFAの「高円宮記念JFA夢フィールド」(千葉県)とJRFUの「JAPAN BASE」(福岡県)が、それぞれ培ってきた施設運営や活用の知見を共有することで、施設価値の向上や持続可能な運営を目指します。内容には、ファシリティー・マネジメントの高度化、地域スポーツ振興や自治体・地域団体との連携、ナショナルチームや育成年代の強化、指導者・スタッフの養成および交流などが含まれています。サッカーとラグビーという二つのフットボール競技が枠を超えて協力し、日本スポーツ界のさらなる発展と地域社会への貢献につなげていきます。※7/21発表

その他の主なニュース

- ・【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHIコメセンサーキット2026」第1回「夢の教室」を6/12に奈良県五條市で開催(6/5発表)
- ・JFAアカデミー福島とFC今治アカデミーが「AFCエリートユーススチーム」最高ランクのフルメンバーシップ(三つ星)を獲得(6/6発表)
- ・ユニクロサッカーキッズを7/27にイタリアのミラノで開催。元日本代表監督のザッケローニさんがゲスト参加(6/10発表)
- ・SAMURAI BLUEの軌跡をたどる歴代ワールドカップ企画展をblue-ing!で開催(6/10発表)
- ・ニューヨーク・タイムズスクエアでSAMURAI BLUE応援ムービーが放映「最高の景色を2026 BLUE WING ACTION～世界に見せよう、応援のチカラ～」(6/11発表)
- ・日本サッカー協会×日本漢字能力検定協会 SAMURAI BLUEメンバー26人が漢字プリントに登場(6/11発表)
- ・サッカー日本代表応援MOVIE「見せてくれ」を公開(6/14発表)
- ・JFA×ニッパンバトリンTMケガ予防クリニック in岐阜を6/24に岐阜県立各務原高校で開催。柏木陽介さんが登壇(6/16発表)
- ・「夏休み自由研究2026 サッカーを通して、SDGsを学ぼう!」イベントを7/23、24、8/17に高円宮記念JFA夢フィールドで開催(6/22発表)
- ・JFAクラウドファンディング「夏の挑戦資金」応援フェアを開始(6/23発表)
- ・JFA×ANESSA「キッズイベント for ANESSA Sunshine Project」を全国8会場で開催(6/24発表)
- ・【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHIコメセンサーキット2026」第2回「夢の教室」を7/2、3に埼玉県さいたま市で開催(6/25発表)
- ・JFA×SCO GROUP「FUTURE CAMP」inspired by BLUE LOCKを8/3～6にアメリカ合衆国で初開催(7/3発表)
- ・熊本地震復興応援プロジェクト「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を10/10に熊本城二の丸広場で開催(7/10発表)
- ・【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHIコメセンサーキット2026」第3回「夢の教室」を7/22に東京都八王子市で開催(7/15発表)
- ・blue-ing!にて夏休み限定の特別体験企画や日本代表関連展示、限定メニュー・グッズが登場(7/16発表)
- ・JFAアカデミー福島女子16期生の古川心尋選手がマイナビ仙台レディースに加入決定(7/16発表)
- ・「#夢をつなぐ応援フラッグ」を7/20～26に渋谷に掲出。募集したメッセージはライブ書道パフォーマンスにより完成(7/17発表)
- ・天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会 夏休み子ども体験型イベント「SAMURAI BLUEも最初はココにいた!?～世界へつながる『天皇杯』のヒミツに迫る～」を8/12にblue-ing!で開催(7/23発表)

令和8年熊本地震 被災地に力を UNITED TOGETHER



サッカーファミリー復興支援金
寄付金募集

令和8年熊本地震における「サッカーファミリー復興支援金」募金を受付中

JFAでは、令和8年熊本地震で被災したサッカーファミリーを支援するため「サッカーファミリー復興支援金口座」を開設し、寄付を受け付けています。

みずほ銀行(0001) 渋谷支店(210) 普通預金 3229041

公益財団法人日本サッカー協会 サッカーファミリー復興支援金口 ざいごんさかーきょかい さかーファミリーふきんぎんぐち





動画も
公開中!

JFA女子委員会副委員長

宮間あやさんを マンマーク!

第24回のゲストは、なでしこジャパン(日本女子代表)の2011年のFIFA女子ワールドカップ優勝メンバーであり、現在はJFA女子委員会副委員長を務める宮間あやさん。現役時代から今のなでしこジャパン、新シーズンが始まるWEリーグまで話が及びます。

安定感あるなでしこジャパン 再び「世界一」へ、チャンスはある

宮本 2023年の女子ワールドカップ決勝で宮間さんがトロフィープレゼンターとして登場したときは驚きました。

宮間 これは裏話なんですけど、他の優勝経験があるレジェンドたちがそれぞれ別の仕事があったらしく、直前になって「行け」となったんです。

宮本 直前のオファーだったとしても、トロフィーを持てるのは優勝経験者だけだから、その役割を日本人が務めているのは本当にすごいこと。日本の女子サッカーをもっと大きくしていく意味でも、日本の多くの人に広く知ってもらいたかったという思いがありました。ちなみに優勝トロフィーってやっぱり重いの?

宮間 感覚としては2011年に優勝した当時とは比べものにならないほど重いですね。持つたびに緊張もしますから(笑)。

宮本 2011年の女子ワールドカップを振り返ると、狙っての優勝でした?

宮間 もちろん狙っていました。狙えるほどの立ち位置ではなかったかもしれないですけど、「優勝しようね」という話はしていました。どうして優勝できたかはいまだに自分たちも分からないですが。

宮本 勝つにはもちろんチームに力がないといけないけど、地元ドイツに勝利するなど勢いをつけていきましたよね。自分が男子代表でやっていたときに、女子代表がああやってバーンと頂点に立って、置いていかれたなって思いましたよ。

宮間 当時は男子の優勝と女子の優勝じゃ違うでしょ、みたいなところが少なからずあったと思うんです。私たちもあまり(優勝の重みに)実感がなかった。でも日本に帰国したときにたくさんの方に出迎えてもらって、優勝したんだなって実感しました。

宮本 宮間さんはのちにキャプテンを任されることになる。

宮間 皆さんがイメージする当時のなでしこジャパンって、ちょっと崇高な印象を持っていたらいいなと思うんですけど、意外とそんなことなく。たとえばセットプレーなんか、他のチームの良いところはどんどん真似していました(笑)。

宮本 あの優勝から15年。宮間さんの目には今のなでしこジャパンの戦いぶりはどのように映っていますか。

宮間 割と同じメンバーで過ごしているので、安定はしていると思いますね。

宮本 来年はワールドカップがあります。どうしたら再び優勝できると思いますか。

宮間 逆に教えてほしいです(笑)。私たちのときはアメリカやドイツなど実力的に抜けているチームがはっきりしていて、ここを倒せばいい。というのがありました。でも今はそういったチームがもう少し多くて、戦術的にも複数の引き出しは持っておかないといけない。選手層ももっと厚くしていく必要がありますし、長い時間を一緒に過ごして強化できれば一番いいんですけど、なかなか難しいですね。

宮本 今、特に強いと感じるのは?

宮間 スペイン、イングランド、アメリカあたりですかね。ただ、来年のワールドカップはチーム数が増えるので、最初から(強豪と)パチパチの組み合わせにならない想定でいくと、ピークを決勝に持っていくことができれば優勝するチャンスは十分あると思っています。

宮本 WEリーグについても伺いたいですね。昨シーズン優勝したのは、INAC神戸レオネッサでした。女性監督として初めてリーグ制覇を果たした宮本ともみ監督とは現役時代、一緒にプレーしている間柄ですけど、INACの強さをどのように見ましたか。

宮間 チームとしてこう戦うというのがブレなかったなという印象です。宮本監督になってチームの雰囲気もより明るくなりましたよね。

宮本 ゴールした選手がベンチに行き一緒に喜ぶというシーンが多かった。

宮間 (ベンチと選手たちの)絆の強さみたいなものを感じました。

宮本 WEリーグ全体を見ると、ベテラン勢も頑張っているし、若い選手や新しい選手もどんどん出てきて、レベルが上がってきているという印象を僕は持っている。

宮間 そうですね。私の願望を言うなら、もっと各チームの色を見たいなという思いはあります。INACの色もあれば、崩し切った無人のゴールにパスをするような(日テレ・東京ヴェルディ)ペレーザの色もある。チームそれぞれの色を見たいし、逆にINACやペレーザにももっとその色を出してほしいですね。

宮本 そのためにも、試合数をもう少し増やしたいよね。理事会や実行委員会でも3回戦制にするとか、ホーム&アウェイのほかに中立地で開催するとか、さまざまな議論をしています。どれが正解かは分かりませんが、試合数の増加は強化にも、人に見てもらえる機会の創出にもつながりますから。

宮間 あと、オールスター戦があったらいいですね。なでしこリーグ時代にあって、国立競技場でやらせてもらったこともありました。すごく盛り上がりましたし、ファン、サポーター同士の交流などもあったみたいなので。

宮本 現在の宮間さんは女子委員会副委員長であり、人種差別問題に取り組む国際サッカー連盟(FIFA)の委員会でも活動されています。これからどんなことに取り組んでいきたいですか

宮間 (女子サッカーが)なるべく良い環境になっていくように、自分にできることを探してやっていく。それに変わりはないですけど、人種差別問題をはじめ、自分自身も学びながらその大切さを伝えていくことができればいいなと思っています。

宮本 WEリーグも新しいシーズンが始まるので、またいろいろと感想なり、意見なり聞かせてください。

宮間あや(みやま・あや)

1985(昭和60)年1月28日生まれ。千葉県大網白里市出身。岡山湯郷Belle、INAC神戸レオネッサなどで活躍し、2003年になでしこジャパン初選出。11年FIFA女子ワールドカップ(ドイツ)優勝、12年ロンドンオリンピック準優勝、15年FIFA女子ワールドカップ(カナダ)準優勝を経験し、なでしこジャパンのキャプテンも務めた。16年に現役引退。現在はJFA女子委員会副委員長、FIFA反人種差別・反差別教育委員会委員。

※次号は2026年9月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE

